

## 5. 研修カリキュラムの構築

### 5-1. 研修カリキュラムの概要

#### (1) 目的

本事業では、利用者が安心できる住環境を確保できるよう、福祉用具や住宅改修の提供プロセス、他職種との連携状況等についての実態把握し、福祉用具専門相談員の研修カリキュラムの見直しや他職種連携に関する研修モデル等を構築することを目指すべき成果とした。

アンケート調査やヒアリング調査で収集した事例を教材や演習の事例として活用し、福祉用具専門相談員の住環境確保等に関する専門性を向上させ、他職種連携の方法（ノウハウ）を学ぶための他職種合同で行う研修カリキュラムを構築することとした。

#### (2) 作業部会の設置

モデル研修のカリキュラム等の詳細を検討するため、作業部会を設置した。作業部会の委員は以下のとおりである。

#### <作業部会委員>

勝田 由美子	一般社団法人ワイズ住環境研究所	代表理事
金沢 善智	株式会社バリオン	代表取締役
千葉 博	株式会社サカイ・ヘルスケア	営業管理課長
中野 哲	パナソニックエイジフリー株式会社	リテールサポート事業部 住環境ソリューション部 統括部長
東島 弘子	国際医療福祉大学大学院	教授
○ 渡邊 慎一	横浜市総合リハビリテーションセンター	地域リハビリテーション部長

#### ○委員長

(敬称略・五十音順) (所属は令和2年3月時点)

#### <オブザーバー>

畑 憲一郎	厚生労働省老健局高齢者支援課	課長補佐
石松 香絵	厚生労働省老健局高齢者支援課	福祉用具・住宅改修係
岩元 文雄	一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会	理事長

(敬称略) (所属は令和2年3月時点)

#### <事務局>

山本 一志	一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
中村 一男	一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
肥後 一也	一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
柳田 磨利子	一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会

江崎 郁子 株式会社三菱総合研究所  
 大橋 毅夫 株式会社三菱総合研究所  
 谷澤 由香理 株式会社三菱総合研究所  
 押野 玲奈 株式会社三菱総合研究所

### (3) 作業部会の開催状況

作業部会は下記のとおり、2回開催した。

図表 77 作業部会の主な議題

時期	回	議題
令和元年	10月10日	第1回 事業概要、事業実施計画検討 研修カリキュラムの作成について モデル研修の開催について
	11月27日	第2回 モデル研修の開催について 研修カリキュラムについて モデル研修における講義について モデル研修における演習について

## 5-2. 模擬演習の実施

### (1) 模擬演習実施の目的

研修カリキュラムの改善点等を収集するための「安心できる住環境の確保に向けた他職種連携モデル研修」に向けて、作業部会で検討された研修カリキュラムの内容（主に演習）の点検、使用する教材の過不足、研修時間の調整の必要性等を模擬研修参加者の各職種から意見を出してもらい、想定しているモデル研修の教材やカリキュラムに反映させることを目的に実施した。

### (2) 模擬演習開催概要

日時：令和元年 12 月 13 日 13:30～17:00

場所：株式会社カクイクスウィング 加治屋町ビル 3 階会議室

参加者：福祉用具専門相談員 1人

介護支援専門員 1人

理学療法士 1人

介護福祉士 1人

建築士： 1人

事務局：肥後（一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 事務局長代理）

谷澤（株式会社三菱総合研究所）

### (3) 実施内容

モデル研修で使用予定の資料を活用し、想定している演習プログラム（時間配分）に基づき、実際に1つのチームとして演習を実施した。

演習終了後、振り返りの時間を設け、演習実施にあたっての説明資料や時間配分の改善点、使用する演習資料や記載されている利用者情報等の過不足について、各職種の立場からの意見を収集した。

模擬演習にて収集した改善点を基に、再度事務局にて演習の進め方、配布資料等の検討、修正を行い、モデル研修実施時の研修資料とした。

## 5 3. モデル研修の開催

### (1) モデル研修開催の目的

安心できる住環境を確保するための他職種連携を促進するために、下記の3点を目的とした研修カリキュラムを作業部会にて検討・作成した。

- ① 福祉用具専門相談員と他職種（介護支援専門員、リハビリテーション専門職、医療・看護職、介護職（介護福祉士等）、建築関係職（建築士、福祉住環境コーディネーター）等）の専門性や役割への理解を深める。
- ② 他職種との連携のノウハウを実践を通して学ぶ。
- ③ 福祉用具専門相談員の専門性を更に向上させる。

上記の3点を目的とした研修カリキュラムについて、実際に研修対象となる各種専門職を対象に研修を実施することで、カリキュラムの課題等を抽出し、必要に応じてカリキュラムを修正を行い、より現場ニーズに即した効果的な研修カリキュラムとすることを目的にモデル研修を開催した。

## (2) 開催概要

以下の2地域にてモデル研修を開催した。

図表 78 モデル研修開催概要

	神奈川会場	長崎会場
開催日時	令和2年1月15日(水) 13:30～17:30(受付13:00～)	令和2年1月17日(金) 13:30～17:30(受付13:00～)
会場	かながわ労働プラザ 第3会議室(4階)	長崎県勤労福祉会館 大会議室(3階)
参加者	計29名 【内訳】 福祉用具専門相談員：9名 介護支援専門員：7名 リハビリテーション専門職：5名 医療・看護職：0名 介護職：1名 建築関係職：7名	計50名 【内訳】 福祉用具専門相談員：14名 介護支援専門員：15名 リハビリテーション専門職：8名 医療・看護職：0名 介護職：9名 建築関係職：4名
実施体制	講師：金沢 善智氏 本老健事業：検討委員会委員 株式会社バリオン 代表取締役(本会理事) 事務局：一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修用レジュメ(講義、演習含む)</li> <li>【演習・利用者情報】</li> <li>・事例概要、基本情報、ケアプラン、住宅概要図(全職種)</li> <li>・看護サマリー(必要とする人)</li> <li>・リハビリテーション経過報告書(回復期)(リハビリテーション専門職、その他必要とする人)</li> <li>・参考資料(福祉用具サービス計画書(基本情報・選定提案書・利用計画)、モニタリングシート)(全職種)</li> <li>【演習・課題資料】</li> <li>・住宅図面(個人ワーク記入用)(全職種)</li> <li>・福祉用具サービス計画書(福祉用具サービス計画書(基本情報・選定提案書・利用計画))(福祉用具専門相談員のみ)</li> <li>・演習振り返りシート(個人用)(全職種)</li> </ul>	

### (3) 実施内容

他職種との連携に必要な知識・ノウハウの習得、および他職種との関係構築による連携の促進、住環境確保にとどまらない連携機会の創出、効果的な他職種連携による利用者にとって安心できる住環境確保の実現を、研修全体の目標とした以下カリキュラムに基づき実施した。

図表 79 研修カリキュラム

形式	テーマ	時間	目的
講義	住環境確保の重要性と他職種連携	40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用者が住み慣れた環境で生活を続けていくためには、安心できる住環境を確保した上で、自立支援に資する各種介護サービスを提供していくことの重要性を理解する。</li> <li>● 安心できる住環境確保にあたって、連携することが望ましい各種専門職に求められる役割と連携のノウハウを理解する。</li> </ul>
講義	他職種連携による住環境確保の事例紹介	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他職種が連携したことで、利用者や家族等の満足度の高い住環境確保に繋がった実際の事例を学ぶことで、他職種連携の重要性を理解する。</li> <li>● 利用者の身体機能や疾病、住宅の状況等により、連携すべき専門職や求めるべき助言について理解する。</li> </ul>
演習	オリエンテーション	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 演習の進め方を理解する。</li> <li>● 配布資料の利用方法を理解する。</li> <li>● 個人ワークの目的を理解する。</li> </ul>
	事例の検討（個人ワーク）	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門職ごとに配布された資料を読み込み事例の内容を理解する。</li> <li>● 自身の職種に求められている役割と他職種に期待する役割を整理する。</li> <li>● 職種別の視点で住環境確保に向けた提案プランについて、住宅図面を用いて検討する。</li> <li>● （福祉用具専門相談員のみ）福祉用具貸与・販売を提案する場合、福祉用具サービス計画書を作成する。</li> <li>● グループワークに向けた意見や提案をまとめる。</li> </ul>
休憩		15分	
演習	事例の検討（グループワーク1）	55分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ内での自己紹介を通じて、互いの職種に求める助言内容を整理する。</li> <li>● 他職種の専門性を理解し、他職種と連携することの効果を体感する。</li> <li>● 他職種の意見を踏まえた、他職種連携による住環境の提案について意見交換を行う。</li> </ul>
	振り返り（グループワーク2）	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループとして提案内容を検討したプロセスを振り返り、各職種に求められている役割を全体で共有する。</li> <li>● グループワークにおいて検討したプロセスを実際のケースでも同様に他職種連携を実践するための留意点を検討・共有する。</li> </ul>
演習	発表	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他職種連携の効果、連携のポイントについて共有する。</li> </ul>
講義	今後の他職種連携について	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修内容を振り返ることで他職種連携の重要性を認識し、参加者同士における今後の地域での連携を促す。</li> </ul>
		240分	

講義：80分、演習（グループワーク・個人ワーク）：145分、休憩：15分、計240分（4時間）

#### (4) 参加者の気づき

研修カリキュラムでは、演習として他職種との意見交換を通じて住環境確保の提案を検討し、その検討プロセスの振り返りを行い、演習を通じての気づき（他職種連携したからできたこと、今後の業務に活かせること、等）をまとめた。

参加者の主な気づきとして、以下のことが挙げられた。

図表 80 演習を通じた参加者の気づき

連携したからできたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各専門職の視点がわかった。</li> <li>・ 職種によって視点が違うので対象者の事がよりわかる。</li> <li>・ 専門職でしかわからない情報を共有できた。</li> <li>・ 他職種が連携することでもれがなくなる。</li> <li>・ 各職種の情報量がバラバラで話し合いにより情報共有が出来た。</li> <li>・ リハビリテーション専門職のリハビリサマリーの情報で本人の状態が良くわかった。</li> <li>・ 情報の不足から本人家族の意向が確認できなかった。</li> </ul>
今後連携を取る際の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院との情報交換（在宅生活のイメージの共有）</li> <li>・ 本人・家族を含めた支援者間の目標の確認（いつまでに何を確認するか）。</li> <li>・ 費用（他職種連携しても仕事につながらない場合もある）。</li> <li>・ 他職種が集まれる仕組みが必要。</li> <li>・ 地域包括ケアにおける様々な職種、地域住民、役所への協力をどのように図っていくか（地域性・個別性あり）。</li> <li>・ 入院中関わっているスタッフにいて欲しい（情報が不足していた）。</li> </ul>
今後の業務に活かせること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多面的（費用や予後など）に考える必要があることを勉強した。</li> <li>・ 異なる職種で意見交換したことが次の提案につながることを感じた。</li> <li>・ 他職種との情報共有をすること。</li> <li>・ 普段は限られた職種のみで判断しているので、他の職種の意見も判断に加えていくことが大事と感じた。</li> <li>・ 本日の研修会にて顔見知りが増えた。</li> <li>・ 連携の必要性の再確認ができた。どのように情報交換していくかの道すじが理解・確認出来た。</li> <li>・ それぞれの専門性を活かしたチームでの話し合いにつなげていけそうと感じた。</li> </ul>

(5) グループワークで挙げられた他職種に必要とされる情報

演習の中で実施したグループワークで、演習・利用者情報等の配布資料（図表78参照）を基に、他職種に提供する情報／他職種から収集する情報について、ポストイットを活用して意見交換を実施した。

配布した資料は、各専門職が通常把握していると考えられる情報に限定していた。このグループワークを通じて、他職種に求められた情報（ポストイットに記載されていた情報）について、①利用者本人、②家族、③住環境（福祉用具・住宅改修内容）、④制度の4つのキーワードに分類し、以下のとおり整理した（参加していない職種も想定）。

図表 81 ポストイットに記載されていた情報（具体例）

各専門職	他職種連携に必要とされる職種領域情報		具体例
福祉用具専門相談員	③	提案可能な福祉用具・住宅改修情報	生活目標や住環境に適合した福祉用具・住宅改修情報
	④	介護保険制度内・外サービス情報	介護保険サービスと自費サービス情報
	①	生活動線と危険予測	支持物や段差、床材質等と身体状況との適合
	①	部屋・家具配置	福祉用具・住宅改修との適合状況
	③	住環境確保の手段	福祉用具・住宅改修・既存家具・生活用品工夫
	①③	福祉用具のお試し情報	試験外泊や一時外出時の福祉用具の試用
	③	生活便利用具	自助具や生活便利グッズ
	③	工事以外の住環境整備の可能性	家具等福祉用具以外の使用の有効性
	③	改修プラン	手すり位置や高さ
	③	住環境整備資材の種類	手すりの材質や形状
介護支援専門員	④	住環境整備各種補助制度情報	工事費用と支払い能力
	①	利用者の希望、意向	したいこと・やってみたいこと
	②	家族の要望、意向	本人への期待や尊重、介護への許容範囲（時間・費用・度合い等）
	①②	ケアプランの情報	自宅で入浴するか？

	①②	生活目標	利用者・家族・支援者間の目標設定の共有
	①②	家庭内での役割	できることの継続
	①②	交友関係や社会参加の状況	外出の頻度
	①	生活全般情報	日・週・月の生活・行動・行事パターン
	②	家族情報	子供の就労状況は？
	②	家族の介護力	昼間・夜間
	①	余暇	余暇時間、過ごし方、自宅での居場所
	①②	介護施設入所意向	在宅介護の見極め
	③	緊急時の対応	担当者間の連絡網や緊急措置判断
	①②	経済状況	住環境整備予算
医療職 リハ職 看護職	①	日常生活動作（ADL）情報	起居・移乗・座位・歩行・移動・排泄・入浴・食事・更衣・整容等
	①	手段的日常生活動作（IADL）情報	掃除・洗濯・買い物・調理・金銭管理・服薬管理・交通機関の利用・電話応対等
	①	身体機能情報と介助レベル	歩行レベルや階段昇降能力と介助レベル
	①	関節可動域と介助レベル	跨ぎ動作可能か？
	①	疼痛情報	疼痛との福祉用具・住宅改修利用評価
	①	運動・動作制限	ドア開閉、屋外での運動
	①	排泄情報	尿意・便意・排泄用具の使用状況
	①	福祉用具使用適合	杖の使い方の理解度
	①	入院時のリハビリ評価情報	ROM・FIM・HDS-R
	①	認知機能	危険認知・予知
	①	身体機能の予後予測	疾患症状の進行状況
	①	使用家具や装備品との身体適合性	家具ベッドで寝起き動作は可能か？
	①	疾患情報	進行度や服薬効果
介護職	①	既往歴	禁忌事項や動作制限
	①	各生活場面における可能な動作情報	洗面は立位？座位？ 靴の脱ぎ履き姿勢は？等介助レベルの選択

	①	家電や生活用具の取り扱い、操作性	洗濯物を取り出しや調理器具の取り扱い
	①	危険行動	危険度
	①	禁忌事項	脱臼のリスク
	①	服薬情報	眠剤使用しているか？ 内服は自分でできるか？
	①	排せつ用具の取り扱い	パッドの外し方
	①	夜間排尿回数	紙おむつ・尿取りパッドの適合
建築関係職	③	家屋構造と施工可能判断	建具や壁の構造、水回り設備など工事可能範囲
	③	住環境整備の安全性の評価	改修工事の安全性の担保
	④	建築基準法令	住環境整備の法令順守

## (6) 実施結果

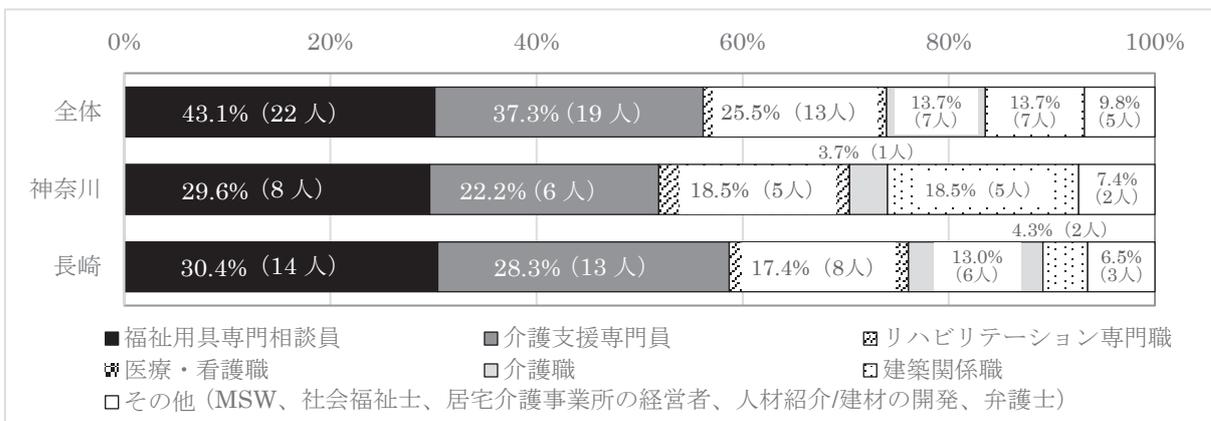
モデル研修終了後、各会場の参加者を対象に、研修カリキュラム等に関する改善点等を抽出するためのアンケート調査を実施した。また、一部の参加者にヒアリング調査も行った。

### ① 参加者属性

神奈川会場、長崎会場、いずれも福祉用具専門相談員を中心に、介護支援専門員、リハビリテーション専門職に参加いただいた。

本研修では、医療・看護職も対象にしていたが、今回は参加いただくことができなかった。

図表 82 参加者の属性



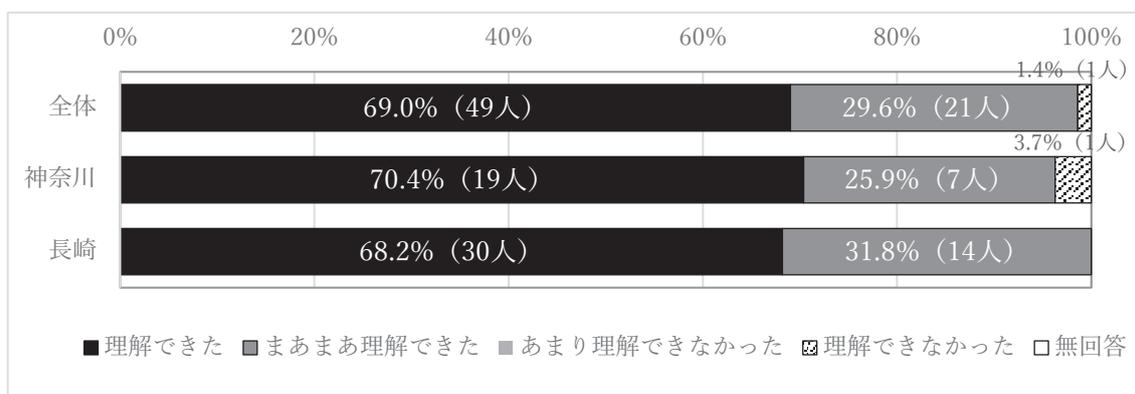
## ② 研修内容の理解度について

講義で実施した各専門職の役割の説明については、神奈川会場の一部参加者が「理解できなかった」と回答しているが（3.7%、1人）、長崎会場では全員が「理解できた／まあまあ理解できた」と回答している。

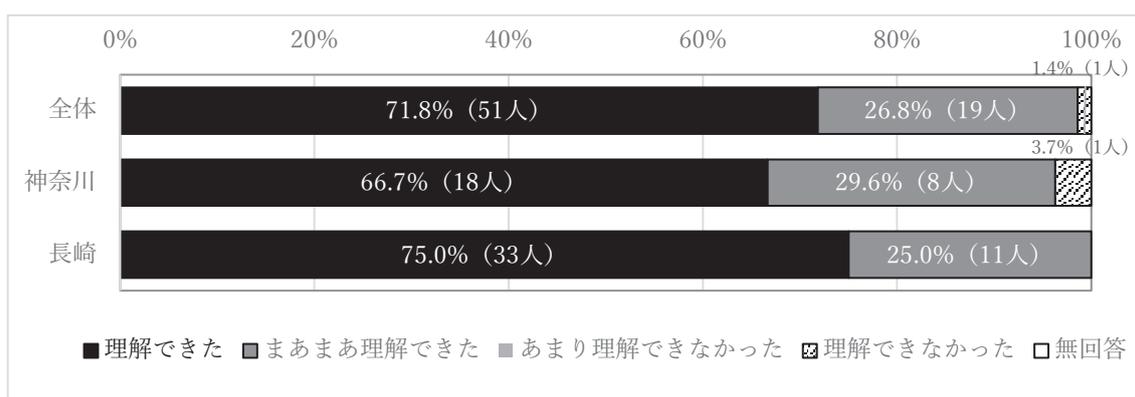
福祉用具専門相談員をみると、「他職種連携のポイントや気づきが得られたか」については他の職種よりも「理解できた」と回答した割合が78.9%と多かった。

ヒアリング調査では、参加者がベテラン職員の場合、講義の内容は既に理解している内容であるため、講義部分はもう少しまとめた内容でもよいだらうとの意見があった。しかしながら、経験の少ない職員の場合には、必要な内容であるとの意見もあった。

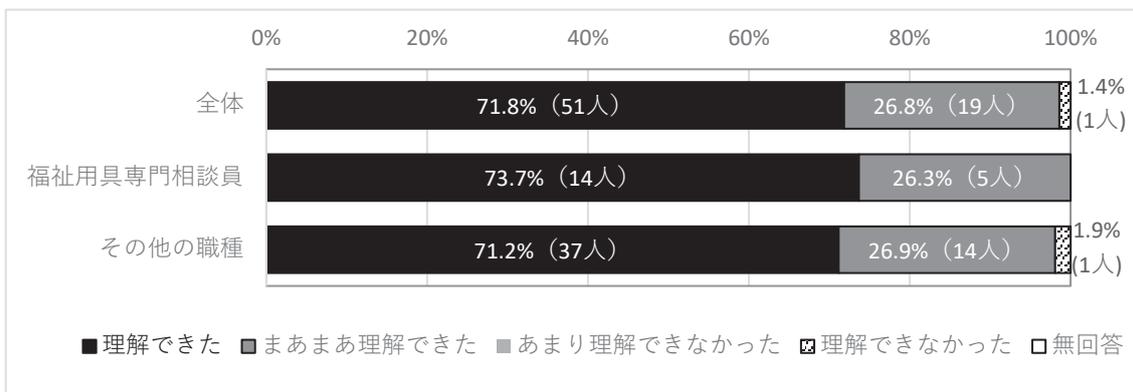
図表 83 自身の専門職の役割について理解できたか（会場別）



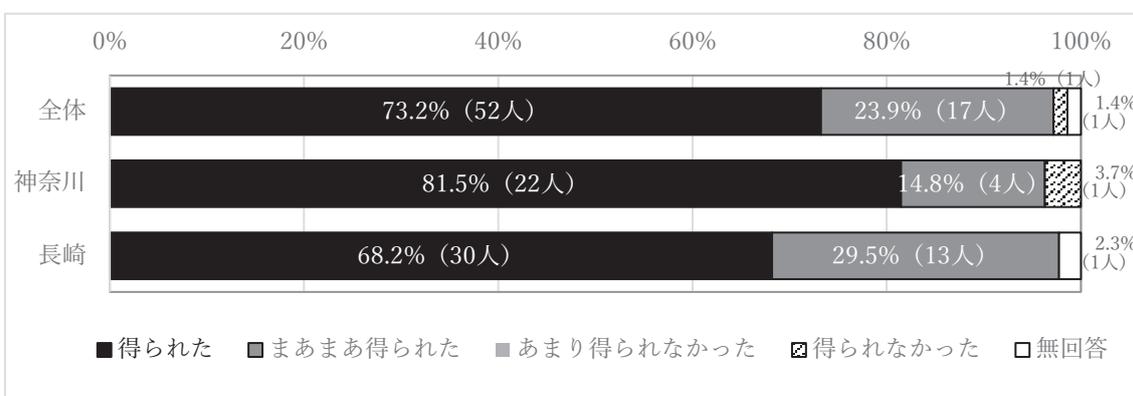
図表 84 他職種の役割について理解できたか（会場別）



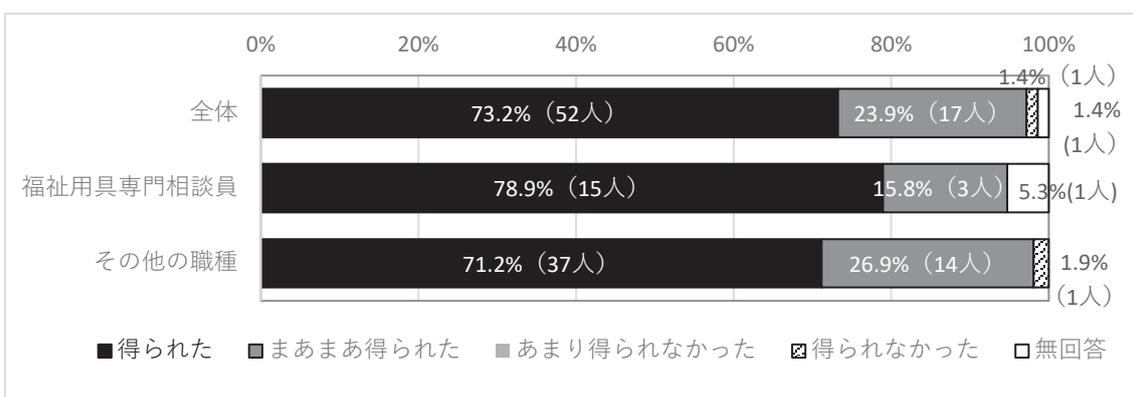
図表 85 他職種の役割について理解できたか（福祉用具専門相談員/その他職種）



図表 86 他職種連携のポイントや気づきを得られたか（会場別）



図表 87 他職種連携のポイントや気づきを得られたか（福祉用具専門相談員/その他職種）



### ③ 演習時の配布資料（情報量）について

演習では、職種別に知り得ていると想定される情報を配布し、個人ワークを行うとともに、グループでの情報共有・意見交換を行い、グループとして安心できる住環境確保の提案を取りまとめる演習を実施した。

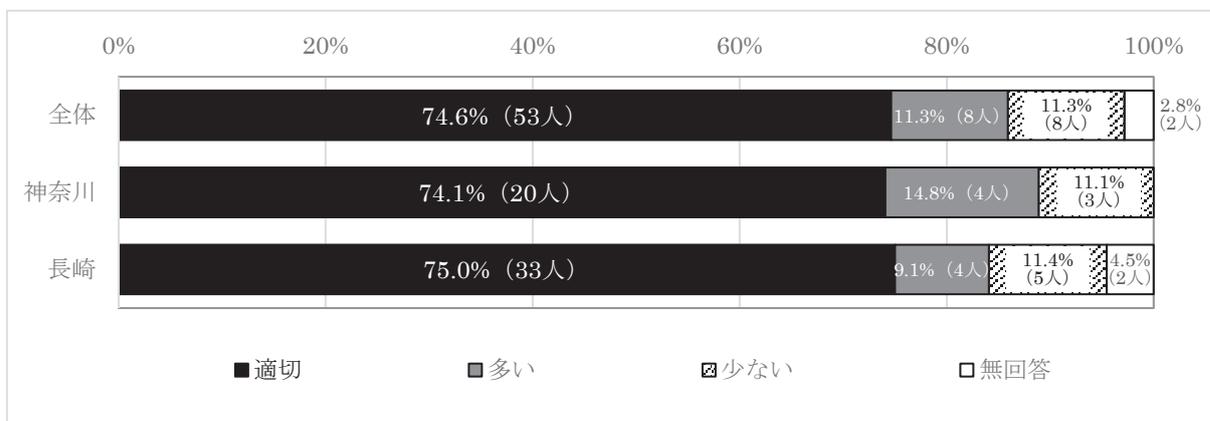
いずれの会場の参加者からも「適切」との回答が70%強であったが、「多い」ま

たは「少ない」との回答も見受けられた。職種別にみると、介護職、建築関係職において「多い」との回答が多い傾向にあった。

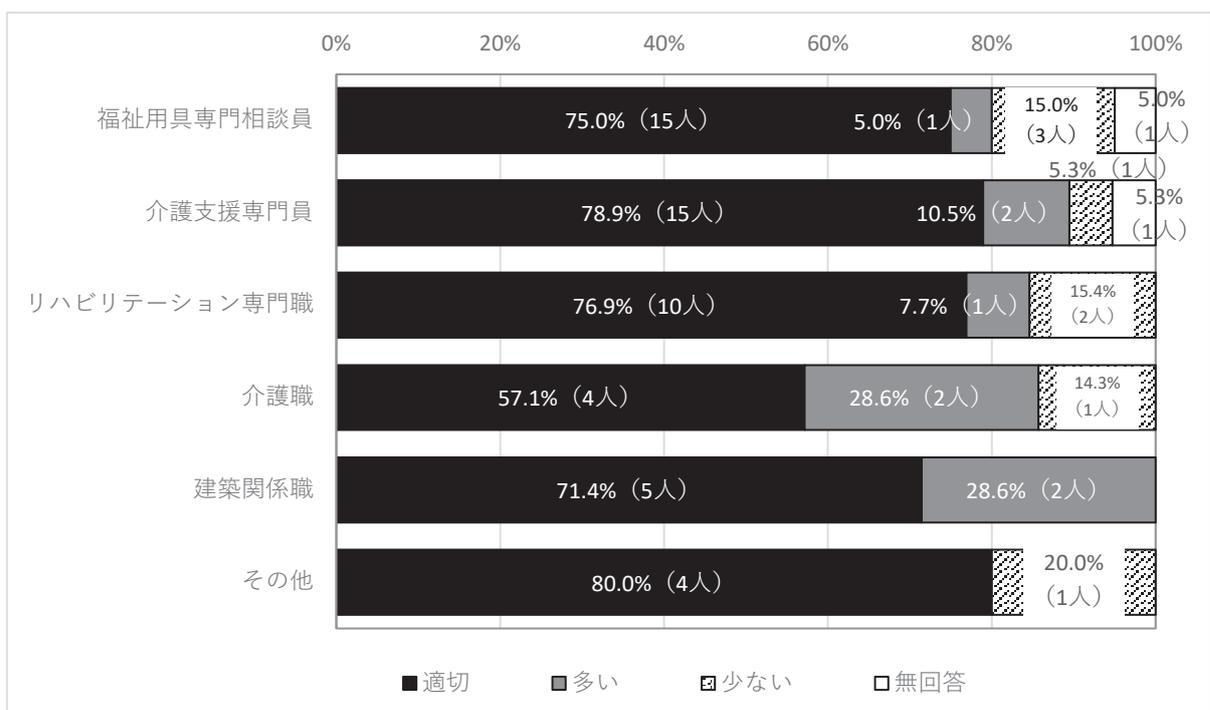
ヒアリング調査では、経験年数の長い参加者、住宅改修の経験がない参加者が混在していたことから、把握しておくべき情報量についての認識の差はあったものの、実際の家屋調査の現場ではあり得ることであり、より効率的な他職種連携をどのように行うかという点で学びがあったとの意見があった。

ワークシートについては、利用者・家族の要望等を記入する欄がない点について演習の発表においていずれの会場でも意見があり、ヒアリング調査においても重要な視点であることが指摘された。

図表 88 配布資料（情報量）は適切だったか（会場別）



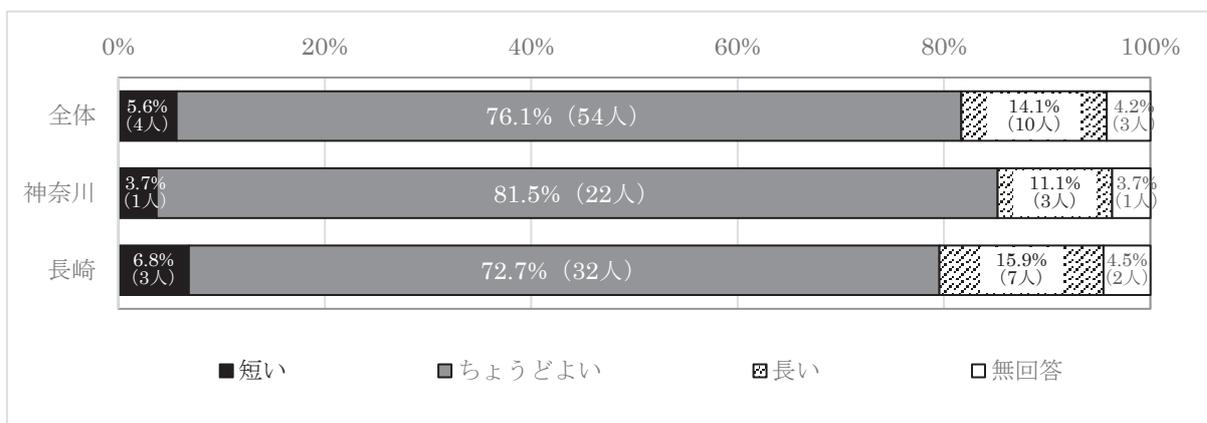
図表 89 配布資料（情報量）は適切だったか（職種別）



④ 研修全体の時間について

いずれの会場でも「ちょうどよい」との回答が多くを占めた。

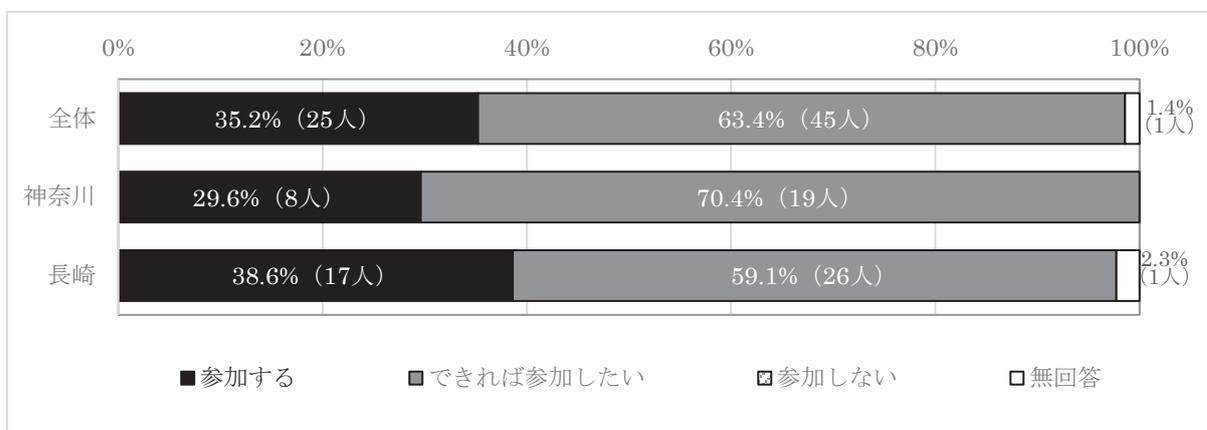
図表 90 研修全体の時間について



⑤ 今後の研修会への参加について

来年度以降も参加したいかについては、いずれの会場においても「参加しない」との回答はなかった。

図表 91 来年度以降も参加したいか



## (7) モデル研修実施のまとめ

本事業において実施したモデル研修において、参加者アンケート、ヒアリング調査において研修の目的であった研修カリキュラムの課題等の抽出について実施できた。研修カリキュラムについては、図表 87 他職種連携のポイントや気づきを得られたか（福祉用具専門相談員/その他職種）のとおり、福祉用具専門相談員を中心に「理解できた」「まあまあ理解できた」との回答が多かったことから、全体構成、講義内容及び演習のテーマについて一定の効果が得られたことが確認できた。

演習の振り返りにおいては、参加者自らが他職種連携の必要性に気づき、今後も連携していく上での課題や、研修を通じて活かせることをイメージしてもらうことができた。他職種が一同に会す機会となり、顔の見える関係をつくる場の提供にも繋がった。

課題としては、演習時に配布する事例の記載内容の見直し（演習に適した利用者像等）やワークシートの改善（利用者・家族の意向について整理する欄の不足等）について指摘された。